

## 卓球にかける思い

「卓球は、対戦相手との距離が近く、表情や姿勢など、さまざまな駆け引きで実力差があっても勝つことができる点がおもしろいと思います」と卓球の魅力を教えてくださいました丹羽選手。

小学4年生の頃に初めてナショナルチームの一員に選ばれ、もっと強くなりたいという意識が高まったという丹羽選手は、全国大会の常連校である青森山田中学校に進学。全国レベルの選手たちと日々練習を重ね、さらに、ロンドンオリンピックに出場するなど、さまざまな経験がリオデジャネイロオリンピックでの銀メダルにつながったといいます。

オリンピックで銀メダルを獲得したことで、国内における卓球への関心が高まったと感じているという丹羽さんは、10月から開幕する卓球リーグ『Tリーグ』によって、日本各地で世界トップクラスの選手たちの試合を見る機会が増え、日本の卓球界がさらに盛り上がることを期待しています。

これまで、海外に遠征し、試合に臨んでいた自身にとっても、国内で強豪選手と試合ができることをうれしく思っていると笑顔で話



▲市内外から集まった約120人の子どもたち全員と1時間以上にわたってラリーを交わした丹羽選手

す丹羽選手は、「2年後の東京2020オリンピックでは、日本代表として出場し、金メダルを獲得したい」と次なる目標を熱く語ってくれました。

## 世界と戦うために

オリンピックの競技種目は、子どもの頃から親しんでいるスポーツが多いものの、選手として世界を舞台に活躍することができるとはごくわずかという丹羽選手。

「世界の強豪選手と戦うためには、子どもの頃から、親や指導者など、さまざまな人に支えてもらいながら一生懸命取り組むことが必要です。つらい練習を乗り越えるためには、何よりも大切なことは、強くなりたいたいという自分の意志をしっかりともつこと」と爽やかな笑顔で子どもたちにエールを送ってくれました。



KIRARI

に わ こう き  
**丹羽 孝希**さん  
(スヴェンソン所属)

平成30年9月30日(日)、『2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業』として登別市総合体育館でトークショーと実技指導を行ったリオデジャネイロオリンピック銀メダリストの丹羽孝希選手に未来を担う子どもたちへの熱いエールをいただきました。

## 日々のたゆまぬ努力が夢への懸け橋に



平成6年、苫小牧市生まれ。24歳。

小学1年生の頃から、卓球を始め、小学6年生で全日本卓球選手権大会ホープスの部で日本一に。ロンドンオリンピック、リオデジャネイロオリンピックに男子卓球日本代表として出場。平成30年10月から開幕する日本の卓球リーグ『Tリーグ』では『琉球アスティード』の一員として、出場する。日本の男子卓球界を牽引する一人で、男子卓球世界ランキング10位(平成30年10月現在)。